

# 秘書学論集

平成元年 4 月

## 目 次

### <論 文>

- 江戸幕府の右筆について ..... 福永 弘之 3

### <報 告>

女性秘書の業務とその限界について

- 大阪市企業調査— ..... 井原 伸允, 佐古 俊郎, 小山 ムツコ 25
- 秘書科卒業生の「生活と意見」調査 ('87)
- 過去 3 回の調査結果との時系列的比較研究— ..... 三井 加寿恵, 二宮 早苗 43
- 会計検査院院長秘書官および検査官秘書の職能に関する研究 ..... 林 雄太郎 61
- 法律秘書試論 (I) —法律秘書研究・教育の背景— ..... 植竹 由美子 69
- 秘書学隣接及び関連諸科目関心度の分析手法に関する試論…三宅 耕三, 中村 寛志 81
- O A 教育におけるデータベースの利用 —秘書教育の一視点— ..... 小谷野 錦子 93

### <研究ノート>

- 秘書のコミュニケーション能力養成にむけて—語学教育の応用— … 安福 恵美子 105
- 秘書の情報業務と O A 化について ..... 田村 幸子 115

No. 7      1 9 8 9

日本秘書学会

## 編集後記

昭和63年12月26～27日に応募論文の審査会議が行われたが、年が明けて1月7日には天皇が崩御されて平成時代に入り、秘書学論集第7号も平成第1号という記念すべき発行となりました。

今回の応募論文16点のうちから秘書学論集第7号に採用されたものは9点で、その内訳は、「論文」1点、「報告」6点、「研究ノート」2点という結果であります。

一般的傾向としていえることは、国際化、情報化という時代の潮流を意識して、秘書職能あるいは秘書教育方法について考察したもの、また、専門職秘書に関する調査研究が、内容としては比較的多かったことと、また、質的な点については、平均的レベル以上のものが多かったのではないかと思います。

しかし、反面、応募論文の中には、内容、形式について十分検討されずに提出されたものがあつたことも事実であります。

論文として採用された「江戸幕府の右筆について」は、秘書の歴史研究として、その内容が充実していて、未開拓といわれる「秘書史」の研究分野に一石を投じた意義ある論文として評価されるものであります。

「報告」「研究ノート」にも、その研究の視点、資料の分析方法において、明確さ、緻密

さを加えることによって、十分論文になり得るものがあります。

周知のように、論文は、データの集積、羅列ではなく、その中に創造的なものを含むことと、すでに存在している理論を基礎として、新しい思想体系を打ち立てることを原則とします。

より内容の充実した論文作成のために、前回にも申し上げましたが、最近、ますます発展している各地区におけるブロック研究会で発表され、批判なり、忌憚のない意見を聞いて検討することが、大変効果的な方法ではないかと思ひます。

秘書教育は、現在、社会からいろいろな意味で注目され、期待されています。それに応えるために中枢にいるのが、本学会の会員であります。秘書教育・研究の質的充実という最も重要な課題に真剣に取り組み、より優れた成果を発表することが、社会の要請に応えるための会員の使命であります。

大変惜越なことを申しましたが、本学会の発展を願つてのこととお許しいただきたいと思ひます。

本論集の完成にあたり、審査委員、編集委員の先生方、また、事務局の方々のご苦勞に對して深く感謝申し上げます。(浅川)

■編集委員 浅川修二(委員長) 岡田聚 奥喜久男 田中篤子 戸田忠一 中佐古勇 吉田寛治

秘書学論集

No.7 1989

平成元年4月28日 発行

発行 日本秘書学会 編集委員会  
〒158 東京都世田谷区等々力6-39-15  
産能短期大学 教務部内  
TEL 東京(03)704-4011

制作 (株) 金精社  
TEL 03-994-5801(代)